

はじめに

聖書は全人類に向けた神のメッセージです。聖書の中心は救い主をつかわすという神の約束です。聖書は膨大な内容を含んでいる本なので、読んで理解することは難しいかもしれません。単なる道徳や規律などを教えている本だと考える人もいますが、そうではありません。

旧約時代（イエス・キリストの誕生前）、神はモーセと預言者たちを通して、旧約聖書を書きました。新約時代（神が私たちの救い主として神の子イエス・キリストをつかわした後）、神はイエスの使徒たちを通して新約聖書を書きました。

聖書が道徳についての神の見解を教えているのは事実ですが、神は救い主を信じているすべての人々に、聖書を通して多くの祝福を約束しています。あなたがこの冊子を読み、これらの約束について学び、その約束にある慰めと希望を見出されることを心から祈っています。

***用語解説について**

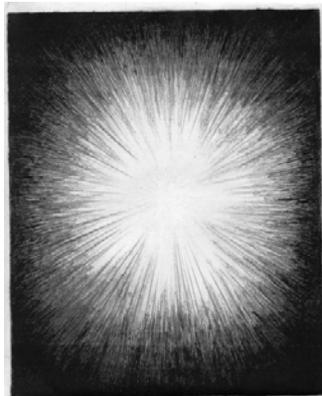
P6. 7. 8 の*下線をひいた言葉については、本文の最後に用語解説があります。

すべての創造の初め

この世界は、一体どのようにして始まったのでしょうか。神は聖書の中で、天地創造のようすを私たちに伝えています。

聖書によると、神は何もない所から、つまり「無」から宇宙のあらゆるものを造りました。この世界が始まる以前は、星、地球、地上の山々や草木などは存在しませんでした。そこは神のみが存在する世界だったのです。全能である神は、言葉を発しただけで天と地とその中のすべてのものを造りました。

神はたった6日間ですべてを創造しました。神が「光よ。あれ」と言うと光ができました。聖書には次のように書かれています。「夕があり朝があった。第一日」。神は6日間それぞれの日に、「～よ、あれ」と言いました。それにより、光、空、地、川、植物、太陽、月、星、魚、鳥、動物などが存在するようになりました。神は明確な秩序をもってすべてのものを造りました。



6日目に、神はすべての生き物の中で最もすぐれたものを特別に造りました。それが男と女でした。神は最初の男であるアダムを地のちりから形造り、最初の女であるエバを、アダムのあばら骨の一つから造ったのです。

人間は神のかたちに似せて特別に造られましたが、それは見える姿が神と同じだったという意味ではありません。神は霊であり、人間のような肉体を持たないからです。神のかたちに似せて造られたという意味は、最初に創造された時、人間には罪がなく、神の意志（こころ）を完全に理解し、神のような完全な聖（きよ）さを持っていたということです。創造の業（わざ）を終えた時、神は「すべてのものは、非常によかった」と言いました。

現代の私たちは、神がこのようにして造った美しい世界を破壊しています。例えば工場の排気で空気を汚し、廃水で海や川を汚しています。むやみに動物を殺したり、不要な森林伐採をしたりしています。私たちは自分の体の管理にも無責任になり、多くの人が不摂生な生活をしています。麻薬や薬物で自分の体を破壊している人もいます。もはや人間は神の創造物である地球の「良い管理者」ではありません。いまや地球は創造時の美しさを失っています。

私たちは自分の体やこの世界を正しくもちいて、神に感謝すべきです。神は人間を特別な存在として造りました。神を信じ、神に感謝し祈るという信仰は、人間だけに与えられたものです。

信仰は神からの贈り物です。神の子イエス・キリストを信じるという信仰を通して、私たちはいつの日か神のもとに帰るのです。そのとき、私たちは「神に感謝せよ。神はまことにいつくしみ深い」と賛美の声をあげることでしょう。

救い主の約束

神が男と女を造り結婚を定めた時、夫のアダム（男）には家庭の指導者、妻のエバ（女）には夫の助け手としての役割を与えました。アダムは悪魔(サタン)に誘惑されたエバにそそのかされ、罪を犯してしまいました。この罪の恐ろしい結果が後世のすべての人間に受け継がれることになりました。

この問題について詳しく見てみましょう。神は天地万物を造ったのち、私たちの最初の両親であるアダムとエバを美しい園に住ませました。そこはエデンの園として知られています。そこには美味しそうな実をつける木々が生えていました。園の中には川が流れ、人や動物や植物をうるおしていました。アダムとエバは幸せで、労働さえ苦勞ではなく喜びでした。

神はアダムとエバに一つの命令を与えました。それは「エデンの園の中央にある善悪の知識の木の実を取って食べてはならない。それを食べるとあなたは必ず死ぬ」というものでした。

そこに悪魔が現れ、エバが神の言葉を疑うように嘘をつき「あなたがたは、その木から実を取って食べても決して死にません。

それどころか、善悪の知識の木の実を食べた人は神のようになります」と誘惑しました。エバは誘惑に負けてその実を食べてしまい、アダムにもその実を与えました。2人はこの簡単な命令さえ守れず、神の言葉にそむく罪を犯してしまいました。その瞬間に彼らの心は神から離れ、肉体的な死をさけられなくなり、魂も永遠に死ぬ(地獄に行く)ことになったのです。



アダムとエバの罪の結果はすべての人間に受け継がれ、私たちも生まれながらに罪深い者となりました。アダムとエバから受け継がれた、生まれながらの罪を「原罪(げんざい)」と言います。それに対して、原罪が引き起こす悪い思い、悪い言葉、悪いおこないを「実罪」と言います。

罪の結果として、神はアダムとエバをエデンの園から追放しました。アダムは食を得るために一生苦しんで労働しなければならなくなりました。神は土地にいばらとあざみを生えさせ、「あなたは、野の草を食べなければならない。あなたは、額に汗を流して糧を得、ついにあなたは土に帰る。あなたはそこから取られたのだから」と言いました。人が苦勞して糧を得なければならない

ことと、必ず死ななければならないという罪の結果は、今日でも同じです。

神は、罪人（つみびと）となったアダムとエバをあわれみ、祝福に満ちた約束を与えました。その神の約束とは、救い主（人間の罪を取り除く方）をこの世につかわすことです。

神は救い主が悪魔を滅ぼすことを宣言し、蛇の姿で現れた悪魔に「彼(救い主)は、おまえ(悪魔)の頭を踏み砕く」と言いました。遠い昔に約束されたこの救い主こそ、神の子イエス・キリストです。イエス・キリストはすべての人の罪を身代わりに負って、神の怒りを受け、地獄の苦しみを味わい、十字架上で死に3日目によみがえったことにより、罪の結果である地獄での永遠の罰と死の恐怖と悪魔の力から全人類を救い出しました。

私たちにとって、この救い主は必要なのでしょうか。神は、聖書の中で「私たちがこの世に生を受けた時、すでに罪深い状態にある。私たちは最初の両親アダムとエバから罪深い性質を受け継いでいる」と言っています。それについてあなたはどう思いますか。聖書が定める罪とは嘘をついたり、盗んだり、他人をうらんだり、のろったり、傷つけたり、悪い欲望を抱いたり、神よりも他のことを大切にしたり、*偶像礼拝をすることをさしています。このような罪を私たちは毎日犯していませんか。その罪の結果として罰を受け、死ぬということは、つらく悲しいことです。

罪をゆるされないままの死は、地獄での永遠の苦しみを意味し

ます。しかし聖書には「神が私たちの罪をゆるすために、救い主をこの世につかわす」という約束が書かれています。その救い主とその約束についてさらに見ていきましょう。

約束の実現

神がアダムとエバに救い主を与えると約束した時から、何千年もの時が経過しました。

その間神は、自分の民（救い主を与えるために神が特別に選んだ民族）を励ますために、特別な使者や*預言者をつかわしました。預言者たちは何千年もの間、救い主はどのような方で何をするのか、また神の約束はどのように実現されるのかを、くりかえし伝えてきました。神から選ばれた民族は、救い主の誕生を忍耐強く待ち望み続け、ついにその時が訪れ、全人類の救い主が生まれたのです。

